

あかつき 道徳通信

教授用資料

巻頭コラム アポリアを超えて楽しい中学生

横山 利弘（元関西学院大学教授）

実践レポート どんな子供でも主体的に深く物事を考えられる道徳授業

遠藤 利恵（魚津市立東部中学校教諭）

No. 9

2019年11月20日

巻頭 コラム

アポリアを超えて楽しい中学生

元関西学院大学教授 横山 利弘

日常生活のなかでアポリアという言葉を目にするのは、ほとんどないと思います。そこで、まずこの言葉について説明しておきましょう。

アポリアと言うのはギリシア語で、一般的には、「解決の糸口を見い出せない難問」という意味です。（オックスフォードのGreek-English Lexicon では of places, difficulty of passing 一通過するのに困難な場所—と説明されています。）

言葉としては知らなくともアポリアは人生の様々な方面に転がっています。たとえば、壊れてしまって回復の糸口が見えない人間関係も、修復しようとすれば一つのアポリアです。このほか仕事上の、解決の糸口さえ見つけられない壁や、思索上の行きづまりもアポリアです。

これだけではどういう事態を意味するのかについてまだイメージしにくいと思いますので、プラトンの有名なメノン篇の一部をアレンジしてもう少し説明しましょう。

日常会話は出来るけれども幾何学の知識を全く持たない少年にソクラテスは問います。

（ソクラテス）「1つの辺が2センチの正方形の面積はいくらですか。」

（少年）「4平方センチです。」

（ソクラテス）「よろしい。では、その倍の面積、つまり8平方センチになる正方形の1辺はいくらですか。」

（少年）「簡単です。1辺も倍にすればよいのです。」

（ソクラテス）「そうだろうか。1辺を倍にすると4センチだね。その面積は16平方センチになるね。今求める正方形の面積は4平方センチの倍の8平方センチだよ。」

（少年）「倍の4センチでは大きすぎるなら、3センチだ。」

（ソクラテス）「でもそれだと9平方センチになるよ。8平方センチにならないね。」

ここで少年はアポリアに陥ります。

さあ、皆さんも考えてみてください。そして、この少年が正解（真理）を見つけ出せるように発問を考えてみてください。皆さんがアポリアに陥らないことを願っていますよ。

さて、中学2年生以上になると、道徳の授業では、分かり切った発問に対して生徒は真剣に考えようとしません。しかし、難しいけれども真理を追究する発問には食いついてきます。真剣に考えようとしています。そして真理や真実を発見すると心底から喜びます。

予測不可能な困難な時代を生き抜く力を育成する教育は、正解に至る道（説き方）を教える教育ではなく、アポリアを喜び、それに挑む気持ちを育てる教育です。子どもたちの内的エネルギーを発揮させる授業です。

実践レポート 「私の道徳授業」



どんな子供でも主体的に深く 物事を考えられる道徳授業

魚津市立東部中学校教諭
遠藤 利恵

はじめに 道徳の授業の第1回目は「道徳開き」と称し、生徒たちと「道徳の時間は何をする時間か」ということについて考え、「心のはたらきをよくする時間」であることを共有する時間にしている。「心のはたらきをよくする」というのは、「感動したり、うれしさや悲しさを感じたりする心情を滑らかにすること」「物事を判断する、行動を決めるときの基準である判断力のレベルを上げること」「自分もこうになりたい、こういう生き方をしたい！」と思う意欲を強くすること」と説明する。これは、道徳科の目標である「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ということについて、生徒にも分かりやすく、具体的な表現で説明しているのである。この「道徳開き」を終えての感想を生徒に書いてもらおうと、

- ・今まで何も考えずに「道徳」って言っていたけど、「道徳」について考えてみると、なんか奥深いなって思った。
- ・今日学んだことは、今の自分の考えている「善悪」や「損得」は、「本当の善悪・損得」ではないかもしれないということ。
- ・無知は恥ずかしいと思った。
- ・人に本当に優しくなるために、道徳の授業を頑張りたい。難しいことや困ったことがあったとき、自分と向き合って、正しい判断ができるようになりたい。
- ・友達といろいろな意見を交換し合えたのでよかった。いろいろな人の意見を取り入れ、考えながら、一生を過ごしていきたい。
- ・道徳とは「人として生きること」だと思った。「人として生きる」とは、「自分の内を見る」「他者と共に生きる」「困難と向き合う」「今、ここを生きる」ことと教えてもらい、その通りだと思った。

というようなことを書いてくる。これまで、様々な教師から、色々な意味で様々な道徳の授業を受けてきたであろう、「道徳経験値」が様々な生徒たちだが、初回から、感受性や表現力、考える力が豊かであることが伺える。一年間、私と生徒たちとで、どんな道徳の授業が繰り広げられるのだろうかと思うと、毎年楽しみは尽きない。

対象学年：中学校3学年

出典：「中学生の道徳3 自分をのばす」（廣済堂あかつき）

授業の構想

■主題設定の理由と指導の工夫

本校では、中学校3年生の2月、理科の時間に「生物と環境」「自然環境の保全と科学技術の利用」の学習をしているときにあわせてこの教材を使った道徳の授業ができるように、年間指導計画に位置付けている。理科では、人間が上から目線で自然を愛護するのではなく、人間も生態系の一部、地球で生きている生物の一員であるということに気付かせるよう留意して指導している。しかし、教科の指導には教科に特有のねらいがあることから、道徳的価値の意味などについてじっくりと考え、深めることが難しい。そこで、理科と道徳の授業の両面から、生命の尊さや自然愛護、感動、畏敬の念といった道徳的諸価値について、深く掘り下げられるようにした。

また、「進んで自然の愛護に努める」とは、人間が自然の主となって保護し愛するということではなく、自然の生命を感じ取り、自然との心のつながりを見いだして共に生きようとする、自然への積極的な対し方であることを理解させたい。そのために、鮭の神秘的でドラマチックな生涯が描かれた本教材を通じて、自然の摂理の厳しさと気高さを感じ取り、人知を超えたものの美しさや神秘に感動する心や、怖れ敬う気持ちを育てていきたい。そして、自らが自然の中で生かされているということ、自分のこととして理解し、自分との関わりで捉え、自分なりに発展させていこうとする意欲につながるよう、展開や発問を工夫したいと考えた。

なお、授業の中で考える時間を十分に確保するため、当日の朝学習の時間にあらかじめ教材文を読ませたうえで授業に臨んだ。

教材名 ほっちゃんれ

主題名 自然への畏敬

ねらい 自然の神秘に感動し、人間の力を超えたものへの畏敬の念を深めようとする道徳的心情を育てる。

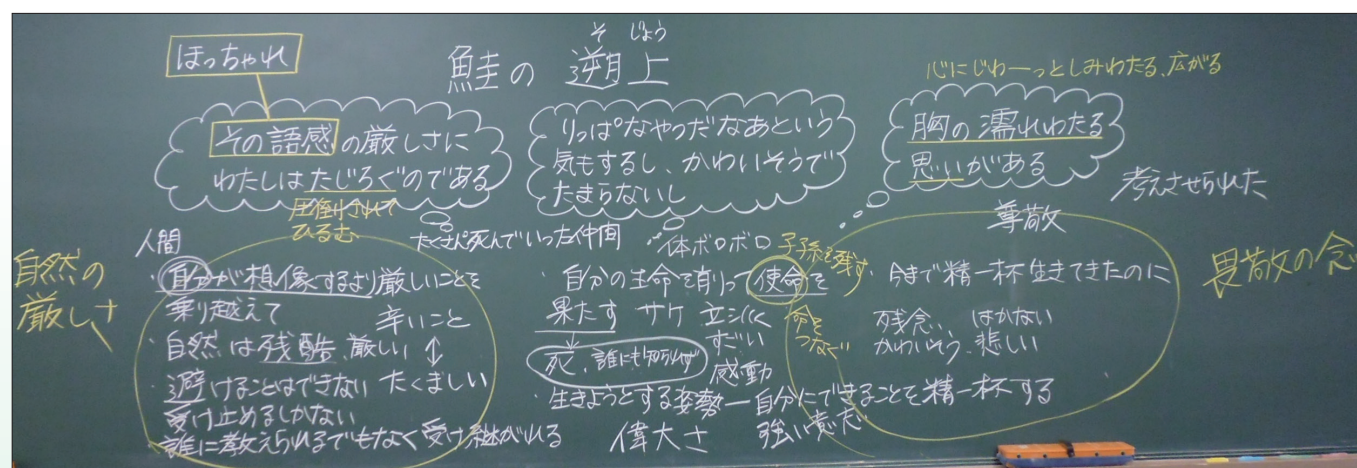
内容項目 感動、畏敬の念〔中学校D・(21)〕

美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。

教材の内容（あらすじ）

● 鮭の生涯を描いた幸田文氏の文章です。四年をかけ、生まれた川に戻ってくる鮭の夫婦。過酷な環境を乗り越えて遡上し、傷付きながら産卵を終え、精根尽きて死を待つだけになった鮭を「ほっちゃんれ」と呼ぶことを知り、筆者はその語感の厳しさにたじろぎます。ある雪の日、大きな「ほっちゃんれ」をその手の上で看取ったという漁師さんの話を聞いた筆者は、その思いを「胸の濡れわたる」と表現するのです。

〈導入〉	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導の留意点
〈展開〉	■教材への関心をもつ。 映像を見る ■鮭の一生について整理する。 教材を読む ■自然の摂理の厳しさ、人間の力を超えたものについて考える。	○「鮭の遡上」という言葉を聞いたことがありますか。鮭は必ず生まれた川に戻ってきて産卵します。 ○鮭の一生について確認してみましょう。 ・必ず生まれた川に戻ってきて産卵する。 ・帰ってくるまでに何千キロもの旅をする。 ・産卵できる、子孫を残せるのはほんの一部である。 ・産卵したら死んでしまう。 ◎「その語感の厳しさにわたしはたじろぐのである」「りっぱなやつだなあという気もするし、かわいそうでたまらないし」「胸の濡れわたる思いがある」などの言葉や文章から、鮭や自然に対する、どんな思いや考えが伝わってくるだろう。 その語感の厳しさにわたしはたじろぐのである ・自然の厳しさ。怖さ。 ・自然は残酷。 ・しかし、自然がないと生きていけない。 ・避けることはできない。受け止めるしかない。 りっぱなやつだなあという気もするし、かわいそうでたまらないし ・子孫を残すためだけに生まれてきてかわいそう。 ・誰にも知られずに死ぬ。 ・使命を果たす偉大さ。 ・限界まで生きようとする姿、命がけで子孫を残そうとする姿、最後までやり遂げる姿に心打たれる。 胸の濡れわたる思いがある ・今まで精いっぱい生きてきたのに、はかない、かわいそう、悲しい、残念。 ・自分と比べられないほどすごい。 ・自然や鮭に対する尊敬。 ・感動。 ・いろいろ考えさせられた。	時間をかけない。 教材の前半部分に相当する「鮭の一生」に関する動画を視聴する。(15分程度) 教材の後半部分を範読する。「ほっちゃれ」「鮭の生涯」に向ける筆者や漁師の眼差しと、その思いについて考えさせる。 人間の力を超えたものを素直に感じ取ることができたとき、自然への畏敬の念や感謝の気持ちが生まれることに気付かせる。
〈終末〉	■本時の学習を振り返る。	○今日の授業を通して考えたこと、感じたことを書きましよう。	特にあれこれ指示せずに、自由にじっくり書かせる。



実践を振り返って

■本時における生徒の感想

- ・子孫を残すためだけに生きていることがかわいそうだった。しかし、厳しい自然の中で、使命を果たすために頑張っている姿が立派だと思った。
- ・自然の厳しさ、生命の強さとはかなさを感じた。自分が生まれたときから、次に命をつなげるために命をかける鮭はとても強い心の生き物だと思った。私は自分が知らないところでこのような厳しい自然があることに驚いた。そして、人間が作ったものは、人間が便利なだけであることが分かった。
- ・この自然界で生きていくことは私たちが思っているよりも厳しくて難しいことなのだった。自分の命を削ってまで使命を果たすのに、その死に方はとてもはかなくて悲しいものだなと思った。これからは食べ物に感謝して食べたい。
- ・鮭が必死に命をつないでいく姿に感動した。自ら厳しさに挑戦する姿勢を見て、自分も真似るべきだと学ばされた。鮭が必死に命をつないでいる中、それを捕らえる私たち人間は少しでも感謝して食べることをしたほうがよいと思った。
- ・鮭の生涯というのは、1日1日が自然との戦いなのだった。私たちは毎日当たり前のように生きているけど、鮭たちにとって毎日生きるとは当たり前なことではないのだと思った。何事にも必死な鮭の姿は、人の心を大きく動かすほど、立派な姿だと思った。自然は厳しいものだけど、その中で必死に使命を果たそうとする鮭の生き方に心を打たれた。
- ・自然は残酷だと思った。私たち人間は、日々の生活を何の大変さもなく平凡に暮らしているし、多少嫌なことがあっても避けることや逃げるができる。しかし、鮭は過酷な環境で生きている。自然はきれいで、残酷な存在だと思った。
- ・私たちはいろいろな植物や動物の命をいただいて生きているので、もっと生命に対して畏敬の念を示さなければいけないと思った。
- ・鮭の、自分ではその姿を見ることができない子供や子孫のために、様々なものと戦って生きていく姿に、悲しさと感動を覚えた。人間は一つのことに対して、鮭のように真剣に向き合えていないと思う。一つ一つの重みを感じていきたい。

- ・人間は様々な生き方を選んで進むことのできる、恵まれた種だと思った。
- ・自然は今まで思っていたよりも厳しいものだった。鮭は一生で「子孫を残す」という目的のためだけに生きているが、人間はいろいろなことができるので、今を大切にしていきたいと思った。

■2時間連続で考えを深める

中学校3年生の2月にもなると、生徒が書く感想は深みを増し、とても哲学的になる。そして、哲学的な教材やテーマにも、難しいからと逃げることなく、真剣に向き合うことができる。そこで私は、「ほっちゃれ」を用いた次の週に、東山魁夷さんの「一枚の葉」（「中学生の道徳3 自分をのばす」廣済堂あかつき）を使った道徳の授業を行う。難しい教材だが、生きることについてグッと深く考えられる面白さがある。参考までに授業を簡単に紹介する。

<授業の流れ>

導入「自然の摂理」について確認する。

発問「一枚の葉が静かに語ってくれた自然の摂理から、筆者はどんなことを考えたのだろう。」

発問「一枚の葉から生きることや死ぬことについてどのように考えた筆者は、どんな生き方をするだろう。」

発問「では、筆者とは逆のことを考えたらどうだろう。『どうせ死ぬんだから』と。」

終末「自然の摂理の中で人間として『生きる』ということについて考えてみよう。」

<生徒の感想より>

- ・人間には「生命の真理について深く考える人」もいれば「生をあきらめる人」もいると分かった。この一枚の葉や鮭のすごさや思いを、「生をあきらめる人」に教えてやりたいと思った。感動した。
- ・自分が生きている中で、幸福とは何かを考えると、「今、生きていること」だと思った。生きているうちは、選択できることがたくさんあるので、自分の幸福をもっと感じられるように生活していきたい。
- ・人生は、自分の選択で決まると思った。生きる意味、本当の幸せなどについて考えてみるのはおもしろいと思った。考える人生を歩んでいきたいと思った。

■おわりに

道徳の時間を通じて、子供たちから教えられることがたくさんある。だからこそ、素敵な道徳の授業を積み重ねることで、子供たちの心はさらに豊かなものに育つのではないかと期待もふくらみ、この素敵な時間を大切にしたいとますます思う。そして今日も、子供たちの深い考えに、人間としての美しさに、胸の濡れわたる思いがある。

あかつき道徳通信 No.9

教授用資料

この資料は、(社)教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則って作成されており、配布を許可されております。

発行 廣済堂あかつき株式会社

本資料の内容についてのお問い合わせは、小社編集部 (TEL :03-6435-6690) までお願いします。

 廣済堂あかつき

〒176-0021 東京都練馬区貫井 4-1-11
TEL :03-3577-8966 FAX :03-3577-8967

バックナンバーは、下記 HP でご覧いただけます。



<http://www.kosaidoakatsuki.jp>

本資料の無断転載・複製を禁じます。